学ぶ意欲を育てる学級経営

―国語科の学習をとおして―

浦添市立当山小学校
池　畑　恵　子

目　　次

Ⅰ　テーマ設定の理由……1
Ⅱ　研究の目的……1
Ⅲ　研究の仮説……1
Ⅳ　研究の内容……2
　1　学級経営の全体構想……2
　2　学級経営の基礎・基本……3～4
　　(1)　学級経営の意義……3
　　(2)　学級経営の内容……3
　　(3)　新しい学力観を生かす授業……4
　2　学ぶ意欲を育てる授業……5～7
　　(1)　学ぶ意欲とは……6
　　(2)　意欲を育てるには……6
　　(3)　学級経営に計画的に生かす……6
　　(4)　一人一人の良さを生かす授業……7
Ⅴ　授業実践例
　1　学級目標と国語科学習指導……8～19
　　(1)　聞く力，話す力を学級で育てる……8
　　(2)　国語科で課題解決的学習をどのように進めるか……8
　　(3)　自ら学ぶ学習を育てる手だて……9
　　(4)　明るい言葉の交わされる学級づくり……9
　　(5)　国語科学習指導展開……10～17
　2　生徒指導と国語科の学習……18～19
Ⅵ　研究のまとめ……18
　1　研究の成果と課題……20
　　(1)　研究の成果……20
　　(2)　今後の課題……20
《参考文献》

学ぶ意欲を育てる学級経営

――国語科の学習をとおして――

I　テーマ設定の理由

学習指導要領総則の教育課程編成の一般方針に「学校の教育活動を進めるに当たっては，自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成を図るとともに，基礎的・基本的な内容の指導を徹底し，個性を生かす教育の充実に努めなければならない。」と示されている。21世紀に生きる子供たちの人間づくりのために「生涯にわたって自己実現を図っていく基礎能力」を培っていくために，これからの学校教育がめざしていかなければならないことである。

学校の教育目標を達成するための主な活動の場は学級にある。子供たちが意欲的・活動的に学校生活を送ることができ，学校にきた喜び，学ぶ喜び，成就感，満足感等を体得し，人間性を育てる基礎的な単位集団が学級である。

ところで，指導要領と指導要録が改訂されたにもかかわらず，いまだに指導法が画一化，硬直化しているとの指摘がある。教科学習活動において，指導の改善・工夫は試みてきたものの「いかに子どもたちに知識中心の学力をつけるか」という教師中心の指導法から脱却できずにいる。だから，子どもたちは学級のなかで自分を十分に生かし，お互いの個性を尊重し合い，意欲的に学び合うゆとりを持つことができなかった。また子どもたちは，諸活動に覇気がなく，「難しいことはさける」「自分の考えを言わない」「やろうとするがなかなか実行できない」「熱中してやり遂げられない」など多種多様の問題が生じてきた。

そこで学習指導要領が目指す教育の実現を図るため，子ども一人一人のよさや可能性を生かすことを根底に据え，子供たち自ら考え，主体的に判断し表現したり行動したりすることができる資質や能力を身につけることを重視して学習指導を構想し展開することが大切だと考える。子どもたちが「自ら学ぶ意欲を育てる」場である学級で自己実現していける学級経営は，その基礎となろう。

以上のことから本研修のテーマを設定した。

II　研究の目標

これからの学校教育がめざしていかなければならない多くの問題の一つである「学ぶ意欲」を学級集団の中で育てるために，学級経営の中で新学力観で言う基礎能力を培うための研究である。

III　研究の仮説

日常の教育活動のなかで「子ども自ら学ぶ学習を育てる授業」

◎　児童理解に努め，一人一人のよさの生かされる授業

◎　基礎的・基本的事項を明確にした授業

◎　主体的学習習慣を図る授業

を実践して行けば，子ども一人一人の良さが生かされ，お互いに関わり合って自己実現でき，「学ぶ意欲」が育つだろう。

Ⅳ 研究の内容

1 全体構想図

経営の全体構想

学校教育目標

緑豊かな学校づくりを進めるなかで情操豊かで平和を愛し，心身ともに健康で，想像力・実践力のある人間を育てる。

・じょうぶな子
・よく考える子
・なかよくできる子
・やりぬく子

市教育委員会指定研究テーマ

基礎的・基本的事項の定着を図る指導の工夫・改善
－学習指導の充実と望ましい学習習慣の形成を通して－

学年教育目標

・しっかり聴き，はっきり話す子
・最後までなし遂げる子
・動作を機敏にする子

学級教育目標

◎しっかり聴き，はっきり話す。
◎友達・資源・道具を大切にする。
◎つぎ何をするか考えて行動する。

学級の実態

・学ぶことに興味がある。
・元気があり健康である。
・おしゃべりが好きで，室内遊びを好む。
・指示された事は成し遂げようとがんばる。
・読書はしたいと思っている。
・決めたことは，達成しようとする。
・みんなと一緒ならば，やろうとする。

テーマ設定理由

学習指導要領・指導要録が改訂されたにもかかわらず，いまだに指導法が画一化・硬直化していると指摘がある。指導の改善・工夫は試みてきたものの，いかに子どもに知識中心の学力をつけるかという教師中心の指導法から脱却できずにいる。

だから子どもたちは学級の中で自分を十分に生かし個性を尊重し，意欲的にび合うゆとりをもつことができなかった。諸活動に覇気がく多種多様の問題が生じてきた。そこで新学力観でいう子ども自ら学ぶ学習を育てる授業を実践しなければならないと考えた。

学級経営のテーマ

学ぶ意欲を育てる学級経営
－国語科の学習をとおして－

経営の仮説

聴くこと，話すことによって育てられる明るい言葉の交わし合える学級は，学ぶ環境をつくり学習活動を充実させ，学ぶ意欲を育てるだろう。一人一人を生かし「自ら学ぶ学習を育てる授業」を実践していく過程で，互いに関わり合い学ぶ喜びを体得し学級で自己実現でき，学ぶ意欲が育つだろう。

研究の目標と方法

学級経営の意義とその役割を理解し，「学ぶ意欲」を育てる授業の充実を図る。新学力観でいう基礎能力を培うための研究である。
国語科の学習指導をとおして，仮説に基づいて検証して経営のまとめとする。

経営内容

学級経営の基礎研究

経営の意義
経営の内容
新学力観を生かす授業

学ぶ意欲について基礎研究

学ぶ意欲を育てる学級経営

実践授業例

◎国語科の学習をとおして
『ごんぎつね』
＊一人一人のよさを生かす
＊学級目標と授業
＊基礎・基本の明確化
＊子ども自ら学ぶ学習
◎新聞づくり
『想像を広げて』
（生徒指導と国語科）

想像力・実践力のある人間
自己教育力・自己実現

経営のまとめ

2　学級経営の基礎・基本

(1)　学級経営の意義

「学級経営とは何か」と問われると，これに的確に答えるのは難しい。小学校では学級経営と学級教育とをあえて区別できない。学級経営のなかに，①教科指導（教授）②特別活動・道徳③環境，条件整備（管理）の全てを含めてとらえる。つまり，学級経営とは，学級担任が行う活動全般ということになる。「学級経営とは，学級において，児童・生徒の学習が有効に成立するように，人的，物的，運営的諸条件を総合的な見地から整備・調整する作用である。」下村哲夫氏は『学年・学級経営』（教育大全集14）で述べている。学級においてとあるが，学級は学習の場であるだけでなく，児童にとって生活の場でもある。子どもの学校生活は，学級を舞台に展開されるし，交友関係も主に学級を中心に構成される。学習を効果的に進めるためには，学級全体に意欲的に取り組もうとする雰囲気がなければならない。

そこで学級の語義と領域を考えてみたい。「学校教育の単位集団。ほぼ近い年齢・学力を持った児童・生徒の集団が学年であり，学年を分割し，一教室に収容するのを可能にしたのを学級とよぶ」＝（学校教育辞典）学級単位として教科・生徒指導が行われている。学級の一員として子どもにとって同年齢の小社会での人間関係が成立する場が学級である。

このように学級をとらえたならば，学級経営は，学級を基盤に展開される教育過程の編成，そしてそれを実施する過程に意義をもつものであるといえよう。だから経営のねらいは，学級の教育活動をいかに盛り上げ，その改善を図っていくかである。また，経営という言葉を考えてみるとこの言葉には，創意工夫の意味もふくまれている。単なる運営とはちがう。要するに，学級での具体的な営みの中で日常生じる様々な教育活動を有効かつ適切に行うように諸々の事象を運営することに意義があるとしてとらえたい。

(2)　学級経営の内容

教育目標の具現化をめざし，計画・実践の過程から具体的に経営の内容を上げてみたい。

①　学級における教育課程の経営

ア．学級の教育目標の設定，イ．学級経営計画の立案，ウ．学級組織の編成，エ．教科学習の効果的な運営，オ．道徳指導の効果的な運営，カ．特別活動の効果的な運営，キ．教育評価と経営の改善

②　学級における教室・環境の経営

ア．教室環境の構成，イ．教室環境の整備，ウ．教室外の学習環境の設定

③　学級における集団経営

ア．児童理解，イ．教師のリーダーシップ，ウ．学級の雰囲気と人間関係，エ．学級集団づくり，オ．教師と子どもの人間関係，カ．生徒指導・教育相談

④　学級におけるその他の経営

ア．保護者，ＰＴＡ，地域との連携，広報，イ．学年・学校との連絡，調整，ウ．学級事務

学級における経営の機能は実際には多種多様で複雑である。

このように複雑に作用し機能した学級経営は，さらに人権尊重教育や健康安全教育など人間として生きていくための基礎的・基本的内容を含んでいる。

(3) 新しい学力観を生かす授業

「見える学力・見えない学力」「ゆとりと充実」「学力向上対策」などが学校教育現場や地域社会でさかんに論じられて久しいが，教育改革とともに「新しい学力観」の登場は，人間観・教育観を転換すべき時代をむかえた。「新しい学力観」は「新学習指導要領が目指す学力観」である。つまり，指導要領は「自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力を育成するとともに，基礎的・基本的な内容を重視し，個性を生かす教育を充実すること」をあげ，具体的に「自ら学ぶ意欲の育成や思考力，判断力，表現力などの能力の育成」を打ち出している。このようなことから「新しい学力観」の生かされる学級づくりが必要であると考える。

では，「新しい学力観」では何がどのように変わってきたのだろうか。

先にもふれたように，学級経営は教育目標達成のための営みであり，それは教育課程の展開を通して実現される。教育課程が具体的に展開される場は，授業である。これまでの授業観をかえなければならない。これまでの「みんな同じ」「教えるための教室」から「個を生かす」「自ら学ぶための教室」へと少しずつ新しい学力観を生かした学級経営を改善していかなければならない。改善のポイントを「学ぶ意欲を育てる」授業において考えたい。

【授業観のちがい】

これまでの学力観からの授業	新しい学力観を生かす授業
① ペーパーテストのようなものでの点数を重視。	① テスト主義のみに陥らない。 学習能力，努力，学習意欲・関心・態度も。
② 教師から授ける，与えられる。	② 自ら，自分の力で獲得する。
③ 耳から入って来る，口伝えを記憶する。	③ 体験を通して体得する。
④ 多くの内容を一通りやる。	④ 重点的，質的，的確に。
⑤ 内容を理解し，それを再生再現。	⑤ 理解の筋道を追求，自分のものとして思考。
⑥ 活用には，教師の手をかりる。	⑥ 自由に使えるように獲得する。
⑦ 決まった教材でその範囲内での学習。	⑦ 教材をもとに能力に応じて，学習の発展。
⑧ 覚えることに努力。	⑧ 発見・創造に努力。
⑨ 一定の尺度で評価。 できたか，できなかったか結果重視。	⑨ 学習の過程を大切にし，個人内での伸びを重視。
⑩ わかる・できることをねらう。	⑩ やる・わかる・できる・つちかう行動をねらう。
◆ 教材中心理解から	◆ 児童理解へ
◆ 教師リード，誘導から	◆ 課題解決型，自ら学ばせるへ
◆ 一斉画一，閉鎖的から	◆ 個を生かし多様性を図る，開かれた学級へ
◆ 評定のための評価，結果主義から	◆ 学習過程での評価，自己評価，相互評価へ

3　学ぶ意欲を育てる授業

新しい学力観に基づく学習指導を目指すならば，まず「学ぶ意欲を育てる学習」について考えてみたい。

(1)　学ぶ意欲とは

「学ぶ意欲」という言葉は，「学習意欲」とともに教師の間でよく耳にする。日常なんとなく使われている言葉である。調べてみると曖昧な言葉であり，とらえにくい言葉である。そこで，「意欲とは？」を問い直すことから「学ぶ意欲を育てる授業」を考えていきたい。

意欲とは，と問われると「やる気・気力」などと返ってくる。国語辞典や広辞苑では次のように記述されている。

〈やる気〉＝何かをしようとする積極的な態度，気持ち。遣る気。(新明解国語辞典三省堂)
〈気力〉　＝困難に堪え，何かをやり抜こうとする強い精神力。　(新明解国語辞典三省堂)
〈意欲〉　＝積極的に何かをやってやろうとする気持ち。　(新明解国語辞典三省堂)
　　＝種々の動機の中から或る一つを選択してこれを目標とする能動的意思活動。
(広辞苑)

「やる気がない。やる気を失う。」という状態は，無気力・気力喪失・意欲減退などと同じ状態である。それはやる気のある状態，ない状態，やる気の像がはっきりしないまま，多様な概念を持った言葉を人それぞれに使っている。「意欲がない」という様子や原因は，一様でないといえる。そこで意欲を心理的事象として次のようにとらえたい。

> 意欲とは，「やる気」があり，「やりたい」という「欲」求と，「やらねばならない・やろう・やりとげよう」という決断と，意図実現までの努力の維持としての「意」志との結合した心理的事象である。　中沢正寿『学習意欲を育てる』〈児童心理学撰集5〉

では次に「学ぶ」ことについて考えてみたい。

「学ぶ意欲」と「学習意欲」はよく似た意味で使われるが，「学ぶ」ことと「学習」することは活動範囲で考えると同意味にはとらえられない。なぜならば，新しい学力観に基づく授業を構想していく場合「自ら学ぶ学習を育てる授業」だからである。辞書には，「学ぶ」と「学習」は次のように記述されている。

〈学習〉＝学ぶこと。勉強すること。経験により行動の変容。(広義)
　　過去の経験の上に立って新しい知識や技能を意識的に習得すること。(狭義)
〈学ぶ〉＝「まねぶ」の変化。学問をする。習う。会得する。身につける。経験してよく知る。「世の中を学ぶ」「科学を学ぶ」修め究める。(社会・生涯教育)

学習は学ぶことであり，学習には「学ぶ学習」がある。学び方の学習である。子ども一人一人が自ら学ぶ学習を通して力を身につけ，より高い人間性を形成していく力。つまり新学力観における能力育成からの「学ぶ学習」である。それは新教育課程が目指す方針の一つ「自己教育力」の育成である。子どもは「学びかたを学習する」のである。このような考え方から「学ぶ意欲」をとらえ，授業の構想の基本的な考え方としたい。

(2) 学ぶ意欲を育てるには

子どもが意欲的に活動するのは，どんなときでしょうか。自問してみたが，それに応えて学級の子どもたち一人一人に直接聞いてみた。

どんなとき「意欲的」に頑張るでしょう。　調査：4年4組40名に聞く。平成6年9月

・おもしろいとき	・ほめられたとき	・みんなといっしょだったから
・楽しいとき	・百点をとったとき	・ものをかってもらったから
・もっとやりたいとき	・やりかたがわかったとき	・試合できたから
・わくわくしたとき	・できるとわかったとき	・だんだんよくなったから
・うれしいとき	・記録が伸びたとき	・発表したいから
・くやしかったとき	・手を上げたとき	・賞をもらいたいから

調査したことを基に「意欲を育てる」手立てとして，次のようにまとめることができる。

【意欲を育てるには】

①カリュキュラム・教材・学習内容が子どもの欲求・興味・必要と強く関わりをもっていること。子ども一人一人にとって，困難ではあるが，みんなでやればできる可能性をもっている対象があること。

②「分かる・できる」と満足感が得られること。結果のみでなく，目標達成への過程の中に学習経験が生かされ，活動をとおして自己実現をしていくこと。

③目標実現の手段として例えば賞・罰を与えて「やる気」で立ち向かわせること。

④自分自身で主体的に行動することによって，その結果，報酬や罰として次の行動の動因や姿を決める形でその行動への「意欲」になること。

⑤人格的，価値的な基底からの成就や自己実現の欲求とその充足「分かる・できる」喜びとしての成就感・達成感という報酬があること。

さらに具体的に上げるならば，　ア，認めてやる。　イ，活動を制約しない。　ウ，魅力をもたせる。　エ，良い意味での競争心に訴える。　オ，比較させる。　カ，何でも話せる雰囲気にする。キ，活動的なものを考える。　ク，知的なものを広げる。　ケ，過去に経験したことを生かす。コ，ユーモアがあること。など「意欲を育てる」のは，子どもの旺盛な生活意欲でしょう。

では，いったい教師は何をどのように学級経営で実践し授業で子どもをどう生かしていけばよいのでしょう。次に「学ぶ意欲を高める環境と個を生かす授業」について考えてみたい。

(3) 学級経営に計画的に生かす

【言語環境経営】

①「新聞づくりをしよう」課題学習をとおして生活発見の場づくり，興味・関心から意欲へ

②「格言・名言」を生かす。重点や指導のねらいにふさわしい故事成語を選ぶ。

③「一日一ページ作文」書くことによる行動・活動の見直し。生活発見。考えを深める。

【学ぶ環境経営】

①自ら学ぶ学習で課題解決できるように情報の収集，資料活用のため図書館利用。

②学校で友だちと共同で学び合う。一人でなかなかできないことも相互学習によって学習が成立し楽しい活動となる。
③読み合い，聞き合いし，話し合って相互評価や自己評価し学ぶ学習を育てる。
④学習集団では，緊張感をもたせ，どきどきする場面を生かしだらけさせない。
⑤パソコンの活用により新しいマルチメディア時代へ対応できるようにする。

【学級活動や学校行事などで学年や他学年との連携】
①集会活動，学校行事に積極的な参加をし，学級を伸ばす機会にする。
②スポーツ大会をもち学年の連携を深める。学級の連帯感を育てる。
③係り活動・当番活動を通して役割を果たす。責任感・達成感をもたす。

(4) 一人一人のよさを生かす授業

「子ども自ら学ぶ学習を育てる」授業		改善したい事柄
① 一人一人が主体，学習の個別化。個性を生かす。	←	教師中心，一斉画一
② 自由に子どもごとに能力や個性を生かす学習。	←	成績重視
③ 自由な学習を通してその子の持つ個性を伸ばす。	←	個性を生かすだけ。
④ できかた・努力の仕方・学習への心情の打ち込み方の重視	←	できかた中心
⑤ 指示を少なくし，思いのままの学習を取り上げる。	←	個性発揮の場や機会
⑥ 子どもの，全人像を見る。能力だけでない。	←	能力・努力・情意面
⑦ 子どもの創意工夫を重視，刺激に対する反応よりも。	←	指導に対する反応行動
⑧ 学習の多様化。のびのびと個性を培う。	←	指導が単線・画一
⑨ どの教科でも個性を伸ばすこと。国語・算数でも。	←	実技教科で個性化
⑩ 自分を見つめさせ，自分を伸ばす意識持たす。	←	教師好みで注意指導

※ 「今」に生き「未来に生きる」子どもたちと「学ぶ力」を育てる授業を日々実践していくことは，容易なことではない。しかし学級経営の中で総合的な活動をとおして，子どもは「自己実現」し，その積み重ねが「自己教育力」を育てていくものである。それは「自ら学ぶ学習」を育て「生涯学習」へと導かれるであろう。

Ⅴ　授業実践例

1　学級目標と国語科学習指導

(1)　聞く力，話す力を学級で育てる

国語科目標の表現では「中心点がわかるように」表現する能力を養うこと「内容を整理しながら」表現しようとする態度を育てることが第４学年の主なねらいである。これを受けて音声表現では「筋道を立てて話す」が指導の重点となっている。また理解の目標では「内容の要点や中心点を正確に押さえながら話を聞いたり，段落相互の関係を考えて中心点を正確に把握しながら文章を読んだりすることができるようにする」である。したがって，話を聞くことの指導では，話の中の幾つかの要点に軽重をつけて聞いたり，話し手が言おうとしていることは何かを考えながら聞いたりして話の中心点を正確に理解できるようにさせる。

このような力を学級でつけるためには，相手の一番言いたいことを常に聞き取ろうとする構えをつくらせる事である。このためには，相手の話の筋の展開に気をつけ，論理的に聞き分けなければならない。そして，それは話すときの柱になる。聞き分ける力をつけることによって論理的思考力がつき，言いたいことをはっきり話せる力へと発展する。そこで指導の要点として，①常に知りたい，何を言いたいのだろうという目的を持たせる。視線や姿勢に気持ちを込めて，うなずいたり，あいずちを打ったりして聞く。②話の中心とそれを支える部分を意識させる。本人の主張と説明のところ，理由のところ等抽象的なものと具体的なものを分けたり，つないだりすることにも気づかせる。話すときには，つなぎ言葉や説明する語尾に注意させたい。③メモを活用させる。話は直感のみでうけとめさせない。確かめたり，記憶して役立てたりすることが大切である。そのためにメモする。聞きながらメモは高学年向きと考える。中学年段階では聞いた後にメモ，話す前のメモが良い。大事なこと，理由，感じたことなど簡単にわかる程度のメモ。メモの取り方に関しては，朝会の話，担任の話，友だちの発表など日常でも育てる。録音教材を使い，正しく聞き取る訓練も取り入れる。

このように，要点を話したり聞いたりするためには，大事な言葉やまとまりに着目させ，国語科はもちろん学級での活動全体で育てる必要がある。またその基礎となる力は，読むこと書くこととの関連指導によって培われる。

(2)　国語科で課題解決的学習をどのように進めるか。

課題解決学習は，子どもが学習目標を自覚し，積極的に問題に取り組んだり追求するところにねらいがある。これまでの授業は問答法によって教師が子どもを誘導していくような指導であった。この指導方法を反省し，子ども自らが，知りたい，わかりたいと思うことを大事にした子ども主体の学習法である。子どもが学ぶ喜び，わかっていく楽しさを大事にして，学習課題を解決していく過程で言語の力が習得できてくるという指導法の工夫である。

まず，「ごんきつね」の物語で課題をどう設定するかである。目に見えるもの，目に見えないものの様子，聞こえてくるものなど情景を生き生きと読み取らせるための方法を，学習の過程で習得できる内容の課題を取り上げたい。

次に課題解決的学習の手順として，①子どもが学習内容や目標を知り，こんなことをしてみたい，考えてみたいということを自覚する。②学習課題を設定し，課題解決の為の方法

を考える。③自分のめあてにしたがって学習したり，友だちと考えを出し合ったりして，まとまりのある学習へともっていく。

留意点として，学習課題の備えるべき内容は，①その課題を考えて行けば，全体と部分の関係や仕組みが理解できるもの。②その課題解決の手がかりは，子ども自身の力で得られるものにしたい。

(3) 自ら学ぶ学習を育てる手だて

子どもは「自分でやってみよう」「自分で考えて工夫してみよう」と言われても，何をどうやってよいかとまどう。そこで教師は，子どもが自分で学習をやり遂げるための手だてを示す必要がある。これまでの基礎ができている力のある子は，自分の力で自分の学習方法を開拓していける。しかし，多くの子どもに対しては，基本の学習の手だてを示していかなければならない。子どもが自ら学ぶ学習をつみ重ねるということは，生活行動に自立していくことである。

「自ら学ぶ学習」を育てる手だては，①物事究明の必要感に立つ。②何を究明するか目標を明確にする。③その対象から何を解明するか問題を抽出する。④それらの問題について，究明方法を探り出す。⑤究明見通しに立って，探求の段取りを立てる。⑥実際に究明活動をし，結論を導き出す。⑦その結果と探求目標とを対象し，確証，確認する。⑧不確かな点を再究明する。⑨体系づける。⑩得た結論を他に転移し，発展させる。これが学問探求の基本的な道筋と稲川三郎氏は『第三の授業』で述べている。これらの手続きを子どもに分かりやすくすると，「やる→わかる→できる→つかう」の手順で学習行動を体得させる。

具体的に次のような学習行動を試みる。

①教材を自分のものとして捉えさせ学習のめあてを捉える。②自分の力で学習していく方法を考える。③学習計画を立てる。④自力で学習を進める。⑤自習した知識や技能を確かめ合う。⑥深め，学習の体系づけをする。⑦基礎・基本の習熟，評価をする。⑧学習を発展させる。

このような学習は，自分の人間形成のためにするのだという自覚をもたせる。他の人と比較することなく，常に自分をみつめ，励まし，前進させようと自己挑戦させたい。またどの子に対しても実らせ伸びる姿をとらえて，認め励ましていきたい。

(4) 明るい言葉の交わされる学級づくり

学級経営では，教師と児童，児童相互の縦横の人間関係の調和によって成り立つ。その調和を育てるのが，話し言葉である。励ましや思いやりの言葉によって学習が続けられる。言葉とともに心を育て，心とともに言葉の力を伸ばし，子どもたちにとって楽しくかけがえのない学級をつくりたい。「しっかり聞いて，はっきり話す。」「言葉で人をきずつけない。」そのためにどうしたらよいか。毎日の生活の中で考え，実行していくことを約束する。まず，教師から実践していく。授業の中でも「明るい言葉」の交わし合える手だてをしていく。

具体的な手だてとして①「明るい言葉の木」を教室につくり「桜の花」子どものリアルな生活から認識させていく。② ＣＡＮの精神「できる」ことをイメージさせ励ます。③親しくても学習と遊びをけじめつけ，素直に励ます言葉「声援」がおくれるようにする。

(5) 第4学年　国語科学習指導案

① 単元名　「感想を大事にして」

中心教材　『ごんきつね』……理解（自分の考えをはっきりさせて）

関連教材　『理由をはっきりさせて』……表現（話し合い）

言語コラム『気持ちを伝える』……言語（人間と言葉）

② 単元目標

□ 人物の行動や気持ちを考えながら読み，感想を深めることができるようにする。

■ 感じたことや思ったことを，理由をはっきりさせて話すことができるようにする。

③ 単元について

本単元は，物語文の読みと話し合い・言語事項の学習をとおして感想の根拠をはっきりさせたり，言葉に込められたその人物の気持ちを表現したりすることの中から，「感想を大事にする」学習が成立することを期待している。中心教材『ごんぎつね』の主人公「ごん」は，児童に興味・関心をひきおこしやすい小ぎつねである。場面の展開もドラマチックで，どんどん読んでいける教材である。この興味・関心を大事にしながら，登場人物への気持ち，行動の変化などを読み取らせたい。関連音声教材『理由をはっきりさせて』は，読みとったことやおさえた文や言葉をはっきりさせ，友だちの話をよく聞いて筋道を立てて話すように自覚させたい。

これまでに児童は，あらすじをもとに感想を書いたり，読書のおもしろさを図書新聞活動で交流をし，学習活動を広げてきた。ここでは，一人一人が自分の感想・意見を持つとともに，友だちと積極的な話し合いや討論などを通して，さらにそれを深めて言語活動を自覚させるようにしたい。感想や意見を発表するときの話し方についても考え合わせたい。

また，学級目標との関わりを意識させて，読んだ内容について，一人一人の感じ方に違いがあることに気づかせたい。学級集団の相互作用を通して，学習活動を充実させ，学ぶ意欲を育てたい。

④ 基礎的・基本的事項

○ 話の内容を正確に聞き取ること。……（理解ア）

○ 人物の気持ちの変化や場面の移り変わりを想像しながら読むこと。……（理解カ）

○ 読んだ内容について，一人一人の感じ方に違いのあることに気づくこと。…（理解キ）

○ 表現の優れている文章を視写して，理解を深めること。……（理解ケ）

● 相手や場に応じて内容の軽重を考えて話すこと。……（表現ア）

● 理由をはっきりさせ，筋道を立てて話すこと。……（表現イ）

△ 目的に応じた適切な音量や速さで話すこと。……（言語(1)アイ）

⑤ 評価の観点

ア．読んだ内容について，自分の感じたこと，思ったことをまとめ，話したり，書いたりすることができたか。

イ．人物の行動や気持ち，場面の情景などが，表現に即して読みとることができたか。

ウ．理由をはっきりさせて，感じたことや思ったことを話すことができたか。

エ，言葉づかいや声の出し方によって気持ちの伝わり方がちがうことを理解できたか。

⑥　指導計画

展開	主な学習指導内容　★は学級経営との関連	時間
一次	○「感想を大事にして」の単元全体を見通して，学習のめあてを確かめる。 ○『ごんぎつね』の全文を通読し，初発の感想をまとめる。 ★二学期のめあての反省をし，学級目標の見直しをする。	3
	○関連教材『理由をはっきりさせて』を読み，感じたことや思ったことを，理由をはっきりさせて話すことができるようにする。	2
	○感想をもとに学習計画を立てる。 ○単元目標を知り，できるようになりたい事柄を具体的にノートに書く。 ★自ら学ぶ意欲持たせるために，「授業では，自習では，」行動目標の明確化。	1
	○新出漢字，難語句を調べる。 ★一人学びや学級目標，三学期のめあてとの関連でやり通す。	1
	○大段落1，2，3，4，5，6を詳しく読み，情景を絵図に表したりする。 ○兵十とごんの行動や気持ちを，問題文づくりをして詳しく読みとる。 ★一人学びしたことをグループで話し合って課題を解決していく。	6
	○全文を読む。音読し合う。感想を書く。 ○感動した表現を視写したりして，読みを味わう。 ★感動したことを表現し発表会をもとう。お互いの学習の成果を認め合う。 ○音読の録音テープを聞いたり，V.T.Rを見たりして学習の反省をする。 ○「漢字のコラム」「送りがなを省いて書く言葉」の言葉の練習をする。	3 本時 1
二次	○関連教材の後半を読み返して，自分たちの話し方について反省し，筋道を立てて話すことができるようにする。 ★朝の会や他の教科学習での話し方も見直す。	1
三次	○『気持ちを伝える』を読んで理解し，その大切さがわかる。 ○読書へ広げる。 ★話し方の自己評価・相互評価をする。	1

⑦　本時の授業

ア　本時の目標

◎みんなで『ごんぎつね』を音読し，読み味わうことができる。

◎理由をはっきりさせて感想を発表をしたり，聞いたりして考えを深めることができる。

イ　授業仮説

一人一人の子が課題を持ち，それを追求していく過程で，次のような手だてをすれば学ぶ意欲が育つだろう。

○子どもが，個人学習・相互学習・一斉学習をすすめていく中で，どの言葉や文を押さえて，課題解決してきたかを教師はとらえ柔軟に対応していく。

○事前に音読の視点を示し，自己評価や相互評価の参考にさせ，音読を工夫させる。

○教室のみんなが「明るい言葉」を交わし合えるような環境づくりをする。

ウ　本時の展開　(14／19)

基礎的内容	◆ごんと兵十の悲しい結末を捉えて，自分の感想をまとめることが出来る。 ◆印象に残った文を引用して文章を書き，感想文に使うこと出来る。 ◆正しい発音・適切な音量・声の高さ・話す言葉の速さ等に気をつけて，話すことができる。 ◆話の内容を正確に聞き取ることができる。 ◆人物の気持ちや変化，場面の移り変わりを想像しながら読むことが出来る。

学　習　活　動	指導上の留意点	評　価
1，今日の学習課題を確認する。「ごんぎつねノート」にめあてを書き，意欲をもつ。 ・読む場面をイメージする。 ・みんなの声をよく聞き，はっきり話す。 2，それぞれの場面で音読する。 3，理由をはっきりさせて，感想を話す。 ・前時で書いた感想の文をもとに発表する。 4，物語の続き話を紹介する。 ・読む人，演技する人それぞれ役割分担してやる。	○前時で決めた学習課題を板書し確認させる。〈一斉学習〉 ○自己評価カードをもとに「努力」の項目に気を配り，考えさせる。　〈個別学習〉 ・学んだ力に自信をもたせる。 ○これまでの課題解決学習の成果はT・Pシートを作成させ発表させる。〈班別・全体学習〉 ○聞き合う，読み合うので，移動をさせない方法を場面設定させる。 ○感動の高まりを大切にし，「広げる学習」へ発展させる。 ○自己・相互評価し他への意欲の拡大を図る。	音読のめあてをもつこと（つかむ）自分の課題を決めること（わかる）情景の読みを絵にしとこと（表現力）学級の目標との関わり意識して（意欲態度）達成・成就感広げる学習力

⑧　【本時までの学習と授業の反省】

展開	学　習　活　動	授業の反省（△は次時への留意点）	月日
とらえる	『ごんぎつね』を聞き，感想をもつ。 ・登場人物がわかる。 ・初発の感想をもつ。 ・話の筋がわかる。	○全員が静かに聞き，感想を書くことができた。 A＝強く心を打たれた場面を押さえた子７名。 B＝筋を押さえているが部分的な感想の子29名。 C＝文の一部分だけを写した子２名。 D＝書いているが意味の分らない子１名。	12／22
	全文を続けて黙読できる。 場面に小見出しをつける。 問題をつくる。１の場面をみんなで考え，後は自ら学ぶ事。	○「小見出し」をつける作業的学習は，これまでにもやってきたので，「学びかた」ができている。（新聞づくりと関連） △静かな学習態度だが主体性に欠ける子数名。	１／６
	なぜ，「しっかり聞き，はっきり話す」なのか理解する。 「明るい言葉の交わせる」学級，追求へ価値や意欲をもつ。 学習の計画を立て，一人学びと授業（相互学習）を知る。	○学級目標の見直しと２学期の反省をもとに学年末のまとめの学習の抱負を持たせる手立てとなる。 ○指定研究テーマとの関わりの視点から「学習習慣」の再確認ができた。 △学習の目標の明確化がもう１時間必要。	１／９
やる・わかる	学習課題「１節の後半を詳しく読もう」の解決方法として文章から問題づくりをする。 一人学びしてきた事柄をノートを交換し合って，本文から読み取り視写しながら答える。 「家庭学習」に意欲をもやす。 写本の目的をはっきりさせる。	○楽しい宿題だったと言い，どの子も得意げにノートを開いた。※風邪の流行で欠席者６名，一斉学習での確認事項もれ配慮必要。 ○目標や学習内容を知らせたので，課題学習の方向づけができた。 ○問題文づくりは読みの目的を明確にした。 ○ノート交換は家庭学習の意欲づけとなった。 ○解答文を書くことは視写の行動目標となる。	１／10
	学習課題「場面を絵や図に描こう。」熱中する。 ノートからT・P転写する。	○叙述に即した読み取りに良い学習課題である。学習の多様性を理解する。児童理解へ。	１／11
	どの節の情景も詳しく読む。	○音や「」部は吹き出し表現する等主体的に読みすすめていた。	１／12

調べる	新出漢字について調べ，本文での使い方を理解する。 既習の漢字と合わせて復習する。 難語句について調べ，意味を理解する。 辞書で調べた事柄を丁寧にノートにまとめる。 辞書の引き方の定着と習熟図る。	○漢字は部首，送りがな，筆順にも注意させ２回・３回書かせたことは，無理なく集中して取り組めた。 ○辞書の引き方は，既習学習であるので意欲的にどの子も喜んで調べていた。得意である。 △語句を使っての単文づくりは，自習にしたい。 △個別指導要する子６名。気構え・態度指導	１／12
	『理由をはっきりさせて』 筋のはっきりした話し方を知る。 ノートにまとめる。 話し形の基本形を理解する。 日常の話し方を振り返る。	○授業参観日，一斉学習で基本的な学習態度の習得，聞く，話す態度のよさを全体で考えさせた。集中して取り組めた。教師の話をしっかり聞く。 △理解力あって文章での表現力あるが，はっきり話そうとしない子への指導が課題である。	１／13
	場面と場面のつながりを読みとる。 気持ちの現れている文や言葉に線「…，〰，―」を引き，サイドに考えを書き込む。	○キーワードを押さえて，小見出しの見直しをする課題解決ができた。 ○サイドライン・書き込みで理解深める。 △自力解決できない子は友だちの写していたが，個別指導の手だてを講じて励ましたい。	１／17
たしかめる	課題の追求をみんなですすめ，確かめ合う。 「」部を役割演技をし，音読を楽しく進める。学習したことを伸ばしていく。	○指導事項を押さえて，これまでの読みをみんなで確かめ，学習のまとめをしていくために発問の工夫をした。「つまらないな」「ひきあわないな」からごんが期待していたことは？…学習が深まった。	１／18
	一人一文ずつリレー読み。 最後の場面，激しい怒りから後悔への気持ちの変化を読む。 ごん・兵十と気持ちの同化。	○力強く，激しく読み，声を落としてどうしようもない後悔の読みを一斉読みで挑戦した。指名読みで気持ちを込めて読んでいる。 △声が小さくほとんど聞こえない子５名。	１／19
	「朗読会をしよう」課題にむけて計画を立てる。	△一学期からの習慣づけ徹底されず，中だるみがみられた。繰り返しの意義を知らせる。	１／20

71

	ことができる。 自分の役割をしっかりできるようにする。 一人学びの評価カードへ記録できるようにする。	月間で本読みカードへ記録していない。 ○「音読のめあて」とその達成へ向け練習し，評価カードをつくる。 ○反省と心機一転「音読」への意欲づくりになろう。	
まとめる	音読し感想文を書く。 とくに印象的な文を抜き書きそれを基に文を書く。 文章にまとめるときは，その理由もはっきりさせて，書くようにする。	○感動場面は，声にして味わったりしていた。 ○評価の視点を知り，意欲的だった。 ○新聞にし，みんなで読もう。という課題を設定したので，一人一人表現に個性があり，テーマや見出しに工夫がみられた。 △欠席した子へ個別指導必要。 △自習ノートや音読の録音，範読なども聞かせたい。	1／23
	感想発表会の準備をする。 音読のめあてカードに記入する。 自己評価する。 録音テープを聞いて，読みの力を向上させるようにする。	○読みは個人学習をすすめてきたので技能的に高まりが見られた。 ○みんなで取り組んできたので，どの子も意欲が感じられた。 ○読みだけでなく，動作や小道具も使いたいとさらに表現の多様化がみられた。 △劇にしたいがその準備不足。時間的ゆとりほしい。 △まず，今回は音読に焦点化したい。	1／24
	『気持ちを伝える』場面にふさわしい話し方，伝えかたを話し合う。	○ノートに書かせ，学習内容をはっきりさせた。 △声の大きさに気をつけ，発表し合う。指導の手だて。	1／25
広げる	音読発表会をする。 新聞の発表をし，読み合う。	○一人一人学んだ力を熱心に表現できた。 △時間・教室という場の制約をもっと工夫したい。	1／26 本時
	読書へさらに意欲をもつ。 新美南吉，斎藤隆介など他の作品を読む。 筋道立てた話をする機会をもつ。	○読みきかせやお話の語り聞かせにより，図書室でその本をさがしてきたりする。 △話す機会を多く持ち，技能を高めたい。 △個人指導を要する子，３人。一緒に読もう。（連れ読みしたい）	1／27

(3) 指導の成果と課題

【成果】

○子どもの個人学習・相互学習・全体学習に柔軟に対応してきたことは，授業で一人一人の子どもを生かすことができた。

○子どもに目標や学習内容を知らせたことは，主体的に学習しそれぞれに「自分の学習」ができた。

○それぞれの学習を授業では，相互に接触させ，組織化できた。

○「明るい言葉」の交わし合える教室づくりは，話し合い活動の基礎集団となった。

★これらは，今後継続して検証しなければならないが，一単元の検証授業のまとめとしての成果としたい。

学級全体39名（個人評価をもとに）

自ら学ぶ学習を育てる観点 授業反省記録・自己評価	良くできる A	できる B	できない C	 D
初発の感想を書く	7	26	2	1
学習計画・自習のできかた	34	3	2	0
あらすじをもとに感想を書く	26	8	1	1
課題：場面を絵に表そう	39	0	0	0
課題：めあてをもって音読	35	3	1	0
一文を引用して感想を書く	37	0	2	0
理由をはっきりさせて話す	37	1	1	0
課題：みんなで音読しよう	38	1	0	0
新出漢字，難語句調べ練習	37	2	1	0
単元末観点別テスト合計	29	8	2	0

【課題】

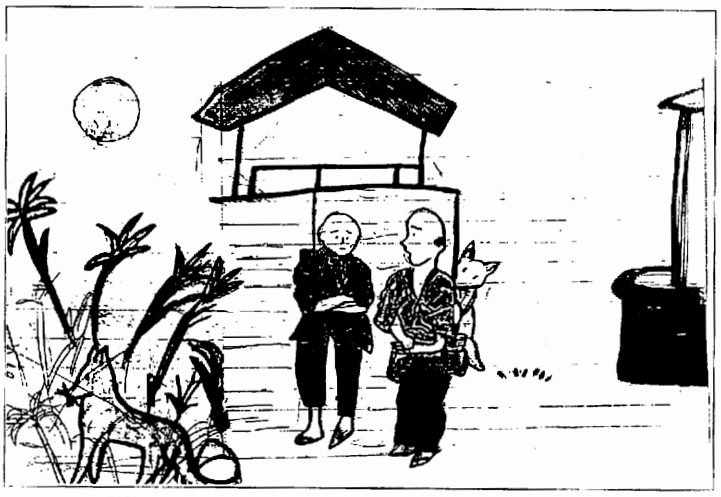
△授業時間を場合によっては単位時間できらないで，弾力的に対応する指導法。

△豊富，盛りだくさんの教材の内容を学び手に合わせて，構造化し捉えやすい分析。

△多様な考えを持つ子どもを伸ばす学習評価。複合的な評価。

△自ら心を開き，心を交わらせ，心を響かせ合う。そして自己実現していく授業。

△「新聞づくり」の単元化，総合的な学習活動として学級経営の構造化。



※「情景を読みとり絵に表そう」課題解決した。
「ごんぎつねノート」に書き，T．Pシートに表した。

※ めあてをもって音読している。
それぞれ役を演じている。

【音読のめあて】 1/26

1	自分の声を自分の耳で聞きながら音読する。	◎
2	聞き手にも内容が正しく伝わるように音読する。（3の大きさの声）	○
3	正しい発音で読む。	○
4	間の取り方に気をつける。句点、読点、行がえなどに気をつける。長く間を取る。短く間を取る。一気に読む。	◎
5	「 」は、声の調子を工夫する。速く読む。ゆっくり読む。強く読む。弱く読む。	○
6	正しい姿勢で読む。胸をはって、背筋をのばして、あごをひく。	◎

（良くできる◎、できる○、もうすこし△）

月・日・曜	1/21	1/22	1/23	1/24	1/25	ゆうた	えみり	あつお	なるひと	ひろあき	ひろゆき
1	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎
2	○	○	○	◎	◎	◎	○	◎	○	◎	◎
3	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
4	△	△	○	○	◎	○	◎	△	△	◎	◎
5	△	△	○	○	◎	◎	◎	△	◎	◎	◎
6	○	○	○	◎	◎	◎	◎	△	◎	◎	◎

学習の進め方

時	月・日・曜	授業では	自習では
1	12・22・木	全文を聞き、感想を書く。	音読の練習
2	1・6・金	学習の計画	意味調べ
4	1・7・土 1・⑨・月	問題づくり P58～P63	小見出し4～6 1の場面の問題づくり
5	1・10・火	問題づくり	1の場面写本 P62～P63
7	1・⑪・水	場面の読みとり	2の場面の写本　絵をかく
9	1・⑫・木	4・5読みとり	3の場面の　絵をかく
11	1・⑬・金	6の場面読みとり	3・4・5・6の場面　写本

↑ 自ら学ぶ学習を育てる手立て

目標を明確に示し、めあてを持って進める学習と自己評価

↓

学習のめあて

主なめあて	できるようにしたいこと	できかたは A	できかたは B	できかたは C	努力は？ A	努力は？ B	努力は？ C
(1)どんな話のすじかがまとめられる。	①通読して、つぎのことをとらえることができる。 ア 登場人物はだれか イ ごんと兵十の関係 ウ 鉄砲でうたれてしまったごん	○○	○		○○○		
(2)場面の情景や人物の気持ちを読み取る。	③1・2の場面を読み、ごんの様子をとらえることができる。		○			○	
(3)作者は何を考えさせようとしているのか。	④⑤3～5の場面を読み、ごんの兵十に対する気持ちの変化を読み取ることができる。		○			○	
	⑥6の場面を読み、ごんと兵十の悲しい心の交流を読み取ることができる。	○			○		
(4)気持ちがわかるように話言葉を生かして読むことができる。	⑦⑧物語全体を読んで、感想をまとめることができる。	○			○		
	⑨場面の情景や人物の気持ちがよく表れるように音読することができる。	○			○		
	⑩漢字の読み書きができる。		○			○	
(5)読んだ内容について、一人一人の感じ方に違いがあることに気づく。	⑪語句の意味を調べてわかり、文章の読み取りにやくたてることができる。		○			○	
	⑫感想を理由をはっきりさせて話すことができる。	○			○		

↑「音読」のめあてを示し、できかたを自己評価・相互評価する。

2　実践事例　【生徒指導と国語科の学習】

(1)　テーマ：心の通い合う学新聞づくり

生徒指導は，どの子もより良き発達をめざし，一人一人の子どもにとって，学校生活が自己の存在感の抱ける場であり，自己の特性を生かし（能力・適性・興味・関心）自己実現の場となるように機能するところに意義がある。（県教育委員会＊生徒指導の方針）

そこで，学級担任が子ども一人一人を理解し，存在感や連帯感が抱ける人間関係を形成する生徒指導を目指すことは意義深い。

ところで，日頃の指導を振り返ってみると，全員が参加し，楽しく，意欲的に取り組むような授業を試みようとしてきたが，ただ単に，興味・関心を持たせる学習にとどまり，学級の子どもの心の通い合う場としての関連教材設定がなかなかできなかった。その要因は，教科学習指導へ生徒指導の視点からの取り組みの弱さにあったように思われる。

そこで，教科学習に生徒指導の機能を生かして授業の改善を図ることにした。

(2)　実践の概要

号	新　聞	テ　ー　マ	教科との関連
創刊号	個人新聞	自己紹介・４年生になって　（４月）	特別活動・道徳
２号	個人新聞	５月・端午の節句・係り活動　（５月）	国語科（作文）
３号	班　新聞	「水」「水の旅」「水資源を大切に」（５月）	社　会　科
４号	個人新聞	６月・梅雨・へちま　（６月）	理　　科
５号	班　新聞	「ごみのゆくえ」「クリー作戦」　（６月）	社　会　科
６号	個人新聞	「生命を大切に」「友達を大切に」　（７月）	道徳・体育
７号	個人新聞	「もうすぐ夏休み」「心に残る本」　（７月）	国　語　科
８号	個人新聞	「よみがえれはりよ」「運動会・縄跳」（９月）	国語科・体育
９号	班　新聞	想像を広げて・１／２成人式・1994年（12月）	国語・特別活動
10号 11号	個人新聞 班　新聞	「ごんぎつね」・新年をむかえて　（１月） 「地震・災害」に思うこと	国　語　科 予　　定

(3) 12月の新聞づくり 【想像をひろげて】

①本時のねらい

・どんな新聞にするかテーマを決め，話し合ったことをもとに作業を始める。

・取材メモや集めた材料を選択し，全体の構成も考えて楽しく仕上げる。

② 展 開

学 習 活 動	指導上の留意点・援助	生徒指導からの視点・評価
ア，どんな新聞にするか話し合う。 ・個人・班新聞 ・テーマを決める。 作業に関わることへの見通しをもつ。	○事前に取材させ，意欲持たせる。 ○定期的に発行するので，心の準備をさせる。(生活に生かす) ○新聞をつくるめあてやそれへの価値を確認させる。	◆興味・関心をもっているか。(資料収集できる) ◆これまでの反省を生かして意欲的にやろうとしているか。(書きたい)
イ，仕事を分担し，構想を練る。	○作業の手順を示唆する。(個別指導)	◆班づくりがスムーズに行われたか。(協力)
ウ，新聞づくりを始める。	○個別・班学習での協力をうながす。	◆作業の見通しをもって，協力しているか。
エ，見出しやレイアウトを見直し話し合う。	○国語学習で取り組んだことを思い出し，見直しさせる。 ○写真，図，イラストなども工夫させる。	◆分担して，得意の分野を熱心にやり遂げようとしているか。 ◆一人一人が生き，個性が発揮できたか。(自己有能感)
オ，掲示し，おもしろいところを見つけお互いの良さを認めあう。	○紙面の構成や見出しの検討。 ○教室に掲示したり，印刷してできた喜びを味わせる。	◆話し合って良い新聞をつくろうとしているか。 ◆自分と異なる新聞を読み，友達の良さを見つけているか。
カ，市立図書館に展示する。施設を利用し，読書の意欲を広げる。(広げる学習)	○市立図書館の予約を事前にする。 ○地域の施設を使い，広報活動や公共への理解を持たせる。「としょまる」など利用し，生活化へ。	◆地域社会生活へ広げる。自ら利用できる。図書館活動へ積極的参加へ。

③ 反 省

・新聞へ興味を持ち，これまでの読書活動を広げることができた。

・活動へ積極的に参加し，最後まで仕上げることができた。よりよい表現へ意欲を持つ。

・学級の心の響き合った創造活動がなされた。準備や制作時間の工夫が必要。

・一人一人が生かされ，存在感・成就感・連帯感など「自己実現」への手だてとなった。

Ⅵ　研究のまとめ

1　研究の成果と課題

(1)　研究の成果

教育課程の具現化に当たり「新しい子ども像」をイメージし，「新しい学力観」で子どもの学習を援助していく授業の展開を考えたことは，これまでの「子ども観」の転換ができた。

また，「主体的な学習習慣を図る授業」は，学習活動を支え・充実させる基盤となり，学級は一人一人の子どもを生かす舞台となった。

(2)　今後の課題

「学ぶ意欲」を育てることは大きな課題であり，これから実践を積み重ね解決していかなければならない。どの子にも基礎的・基本的内容を身につけさせるために，教材の選択・準備・教材の構造化，多様な子どもの実態に応じ，配慮した授業，さらに学級という空間的・物理的制約での授業・学習の場づくりなど問題は山積みしている。

学級は子どもの人間づくりのための基礎能力を培う場であるから，教師は常に正しい目を持った指導者でなければならない。今後，日々の教育活動の中でいかに自己の研鑽を積んでいけるかであろう。

《参考文献》

「小学校指導書教育課程一般編」…… 文部省（平成元年）
「文部時報新しい時代に対応する教育改革」…… 文部省（平成３年）
「小学校教育課程一般指導資料
新しい学力観に立つ教育課程の創造と展開」…… 文部省（平成３年）
「指導要録の解説」…… 文部省内指導要録研究会
「学校づくりをめざす学年・学級の経営　（平成３年）
学校改善実践全集 11 」……下村哲夫著　ぎょうせい
「学ぶ心理・教える心理」…… 波多野完治著　小学館
「新しい学力観を生かす先生」…… 北尾倫彦著　図書文化
「学習意欲を育てる」児童心理選集５…… 児童研究会編集　金子書房
「第三の授業」自ら学ぶ子を育てる…… 稲川三郎著　小学館
「小学校指導書・国語編」…… 文部省（平成元年）
「授業」…… 斉藤喜博著　国土社
「ことばの学び手を育てる国語科の授業２」…… 田辺洵一編著　ぎょうせい
「国語科授業の創造」…… 小森茂著　明治図書
「国語教育の実践理論」…… 倉沢栄吉　明治図書
「新版国語４年下教師用指導書」……教育出版